

矢富盟祥(事業推進担当者)

学 術 論 文

- 1) 阿部孝弘, 矢富盟祥, 橋本堅一, 山本将司, エネルギー解放率破壊規準による長さの異なる平行き裂の進展挙動について, 材料, **51**(6), 659-665 (2002).
- 2) 阿部孝弘, 矢富盟祥, 鱸 洋一, 辻野和彦, 圧縮混合モード荷重下における脆性材料のき裂進展挙動, 材料, **51**(6), 666-672 (2002).
- 3) 杉本 環, 矢富盟祥, 鱸 洋一, 不連続面が折れ曲がる場合の強不連続解析の精度検証に関する研究, 材料, 材料, **51**(9), 1011-1016 (2002).
- 4) 島袋 淳, 橋本堅一, 鱸 洋一, 矢富盟祥: 最大エネルギー解放率クライテリオンを用いた界面き裂の進展特性, 応用力学論文集, 土木学会, **5**, 19-26 (2002).
- 5) 志比利秀, 亀井健史, 矢富盟祥, 粘性土の平面ひずみ非排水伸張試験における分岐解析とその圧縮試験との比較, 応用力学論文集, 土木学会, **5**, 357-366 (2002).
- 6) 島袋 淳, 橋本堅一, 鱸 洋一, 矢富盟祥, 種々の弾性係数比をもつ等方弾性体中の界面き裂の進展特性, 材料, **52**(9), 1129-1134 (2002).
- 7) 鱸 洋一, 大熊俊明, 小西 満, 小島義孝, 矢富盟祥, 陰解法弾塑性計算土/水連成有限要素法を用いた土留め工の解析, 土木構造, 材料論文集, **18**, 143-152 (2002).
- 8) Yatomi, C., Suzuki, Y., Crack extension behavior under the compressive loads using the maximum energy release rate criterion, Proceeding of the 1st international symposium of the Kanazawa university 21st-century COE program, 80-84 (2003).
- 9) 矢富盟祥, 李 炳奇, X-FEMによるき裂折れ曲がり瞬間時のエネルギー解放率の解析, 応用力学論文集, 土木学会, **6**, 19-26 (2003).
- 10) 柳井 竜, 矢富盟祥, 相対不連続変位を付加自由度とした修正X-FEM解析, 応用力学論文集, 応用力学論文集, 土木学会, **6**, 117-122 (2003).
- 11) 柳井 竜, 矢富盟祥, 陰解法弾塑性計算アルゴリズムによる有限変形個/液連成有限要素法解析, 日本計算工学会論文集, **5**, 145-154 (2003).
- 12) 島袋 淳, 橋本堅一, 鱸 洋一, 矢富盟祥, 最大エネルギー解放率クライテリオンを用いた界面き裂の進展特性, 応用力学論文集, 土木学会, **6**, 505-512 (2003).
- 13) 志比利秀, 亀井健史, 西開地一志, 矢富盟祥, 平面ひずみ非排水伸張試験を対象とした中間土の分岐解析, 応用力学論文集, 土木学会, **6**, 551-561 (2003).
- 14) 鱸 洋一, 矢富盟祥, 陰解法弾塑性アルゴリズムを用いた圧縮荷重下に存在するき裂先端近傍応力場の有限要素解析, 応用力学論文集, 土木学会, **7**, 597-605 (2004).
- 15) 李 炳奇, 矢富盟祥, 圧縮荷重下における亀裂進展時のエネルギー解放率のX-FEM解析, 応用力学論文集, 土木学会, **7**, 643-653 (2004).
- 16) 李 炳奇, 矢富盟祥, 陰解法リターンマップ手法を用いた圧縮荷重下における亀裂先端近傍応力場の弾塑性X-FEM解析, 応用力学論文集, 土木学会, **8**, 461-470 (2005).
- 17) 鱸 洋一, 矢富盟祥, 土/水連成陰解法計算アルゴリズムを用いたカクムレイ塑性体内き裂先端近傍応力場に有限要素解析, 応用力学論文集, 土木学会, **8**, 497-506 (2005).
- 18) Yatomi, C., and Bingqi Li, The Development of the Extended Finite Element Method targeting Disaster Prevention, as well as Earthquake and Slope Disintegration Prediction: in "Past and Future Environments of Pan-Japan Sea Region" Maruzen, Co.,Ltd, 338-352 (2006).

海外および国際学会発表状況

- 1) Yatomi, C., Suzuki, Y., Crack extension behavior under the compressive loads using the maximum energy release rate criterion, Proceeding of the 1st international symposium of the Kanazawa university 21st-century COE program, 80-84 (2003).
- 2) Yatomi, C., and Bingqi Li, The Development of the Extended Finite Element Method targeting Disaster Prevention , as well as Earthquake and Slope Disintegration Prediction: in “Past and Future Environments of Pan-Japan Sea Region” Maruzen, Co.,Ltd, 338-352 (2006).

国内学会発表状況

上記「学術論文」に記載した「応用力学論文集」は、論文査読「可」となったもののみ、国内学会で発表の義務があるため、それらは、全て国内学会発表したものです。

来学した外国人研究者

- 1) Deng Zi-chen, Professor, Department of Engineering Mechanics, Northwestern Polytechnical University, Xi'an, China, 2006.3. 6 - 8.
- 2) Hongwu Zhang, Professor, Dalian University of Technology, China, 2006.3. 6 - 8.

博士取得状況

- 1) 杉本 環, 博士(工学), 要素内部に変位の不連続性を持った強不連続有限要素解析に関する研究, 2002. 3.
- 2) 阿部孝弘, 博士(工学), エネルギー解放率破壊基準によるき裂干渉問題に関する研究, 2002. 3.
- 3) 島袋 淳, 博士(工学), 界面き裂の進展挙動に関する破壊力学的研究2003. 9.
- 4) 柳井 竜, 博士(工学), 地盤の滑り面進展解析を目的とした有限要素法の基礎的研究, 2004. 3.
- 5) 李 炳奇, 博士(工学), 地盤の破壊解析を目的とした拡張有限要素法 (X-FEM) に関する研究, 2006. 3.

科学研究費等の受領状況

- 1) 矢富盟祥(代表), 学術振興会科学研究 基盤B. 拡張有限要素法 (X-FEM) を用いた亀裂進展解析による土木材料の破壊現象の解明, 平成16-18年, 5900千円.